

な  
い  
し  
ょ  
の

オ  
イ  
シ  
イ

作・室賀理江

画・なかやまえびこ

おそい朝ご飯の後、リビングのソファの上でぼうっとテレビを見ていたら。

「春らしい、いいお天気よ。リンちゃんをさそって外で遊んできたら」

おせんたく物を干していたママが、マスクの顔でこっちをふり返った。

「えーやだ。寒いよ」

わたしはしかめ面でクッションをかかえこんだ。

もこもこした生地のカバーは、季節はずれの雪の結晶もよう。去年の秋、緑小バザーで買ってもらった。たぶん三年二組のどれかのお母さんの手作り。気に入ってるけど、冬じゅう使ったおかげでそろそろ毛玉が目立ってきている。「なーにー？ せっかくの春休みなのに、家にこもってば

かりじゃもつたいないじゃない。たまには、午前中のしんせんな空気をすってらっしゃい」

「じゃあ、窓を開けようよ。そうしたらすするよ。しんせんな空気」

わたしはクッションから目だけをのぞかせて、にくまれ口をきいた。

「また、そんなこと言って」

ママは花粉症なの。

今だってベランダには出ずに、ガラス戸の手前で室内用の物干しを広げている。物干しは、家族三人分のバスタオルやらスウェットのズボンやらパーカーやらで、見るからにきゅうくつで重たそうだ。ご苦労さまです。

「どうせ今日はスイミングだもん。それまでのんびりする」